

## 委員等からのご意見と計画素案への対応表②

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
個別 施策 以外	白鳥委員	○ 文化行政の方向性の図には説明が必要ではないか	○ まちづくり戦略ビジョンから抽出したキーワードをナンバリングして対応をわかりやすくするとともに記述を「まちづくり戦略ビジョンの目指す姿に繋がるもの」として、価値の向上が何につながるか明確にしました。併せて、ビジョンに記載されている「手法」も記載し、次のステージとの関りも見えるようにしました。 ○ 価値の扱いについては、国と同様の概念で説明しているため、記載を「社会的・経済的価値」に修正しました。
	成田委員	○ 文化行政の方向性の図について、文化芸術の価値の扱いが国とは異なっている部分があるので説明が必要ではないか。	
	成田委員	○ 文化行政の方向性の図で使用されているキーワードについて精査が必要ではないか	○ キーワードについては、適切な和訳が難しいもの以外カタカナ語を避けることとしました。
	成田委員	○ 「戦略ビジョン」P79 から読み取れる「多様な価値観」、「創造力・感性を育成」「相互理解」など、文化芸術にとって重要なkeywordを追加した方が良いと思う。	○ 「多様な価値観」や「相互理解」の考え方については、「共生社会/多様性」という言葉で抽出しています。「創造力・感性を育成」については、基本目標の言葉に併せ「心の豊かさや創造性の育成」として追記させていただきました。
	成田委員	○ 文化行政の方向性の記載について、『様々な分野と連携することにより「社会的価値・経済的価値」のみの向上を目指す』と読めることを危惧しており、「第3期文化芸術基本計画をブラッシュアップする形で継続し、文化芸術の本質的価値を高め、第4期では更に様々な分野との連携を進めることで社会的・経済的価値を向上させることを目指します。」と記載した方が良いのではないか	○ 「社会的価値・経済的価値」のみ向上を目指すような誤解を受けないよう「本質的価値の向上はもとより」という言葉を追加しました。

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
個別 施策 以外	北村委員長	<p>○ ステージ構成を修正してはどうか</p> <p>ステージ1：機会の充実</p> <p>施策1：多様な文化芸術に親しむ機会の提供</p> <p>施策2：文化芸術のための施設の活用等</p> <p>ステージ2：未来への布石</p> <p>施策1：子どもたちの文化芸術を体験する機会の充実</p> <p>施策2：文化芸術を支える土壌づくり</p> <p>※ボランティア、アートマネージャーなどの育成や支援や民間活力の活用など</p> <p>ステージ3：文化資源の保存・活用</p> <p>施策1：文化遺産・自然遺産の保存と活用</p> <p>施策2：札幌の文化芸術を通じた国内外への魅力の発信</p> <p>ステージ4：文化芸術の領域の拡大</p> <p>施策1：創造性にあふれる多様多彩な文化芸術の展開</p> <p>施策2：アーティスト支援の充実</p>	○ ステージ構成を修正しました。
	白鳥委員	○ ステージ4について、文化芸術の領域拡大という表現だと、一般市民に対しては、他分野連携が伝わらないのではないかと。	
	長沼副委員長	○ 文化芸術活動の活性化等の領域の拡大といったような言葉があるのではないかと。	

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策 1-1 1-2	北海道民謡 連盟 荒川氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍を経て担い手が大きく減少している。プレイヤーになってもらうには鑑賞だけでなく体験する機会が必要。</li> <li>○ 規模300～400人ほどの邦楽公演に適した会場がなかなか見つからず、発表の場の確保に苦労している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な文化芸術に親しむ機会については、施策1-1で取組を進めます。</li> <li>○ 施策1-2の重点取組事項として「今後のホールの在り方検討」を設定しました。</li> </ul>
施策 1-1 2-1	札幌舞踊会 千田氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ hitaruのような大きなところ以外の個人も使えるような劇場が不足している。バレエに限らず、発表の場がないことは問題。立地的にも特に高齢者などが訪れにくい場所が多いので、ちょっとした公演や展示ができる場所があると、より皆が豊かになると思う。</li> <li>○ バレエを含め、文化芸術は子どもに夢を与える。引きこもりの子どもなどにも、文化芸術に触れさせることで自由な世界があることを伝えることが大事かもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施策2-1において、環境にかかわらず多くの子どもが文化芸術に触れられる機会の提供を進めます。</li> </ul>
施策 1-1 2-1	みべ音楽院 三部氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人の生活は経済的な面と精神的な面のバランスが大事。生活に余裕がなければ文化に触れようとは思えない。しかし、そういった人やその子どもでも文化に触れられるような機会が与えられれば、健全な生活に導きことができるかもしれない。</li> <li>○ 子どもも家庭に関係なく文化に触れられれば人生が大きく変わることもある。チャンスを提供することが重要。</li> </ul>	
施策 1-1	札幌芸術・ 文化フォー ラム 米澤氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人々の関心は様々だが、その人ごとに引かかるもの、きっかけがないと文化芸術に触れようとはしない。きっかけとなる機会・場の多さが重要。</li> </ul>	

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策 1-1	札幌芸術・ 文化フォー ラム 大橋氏	○ 札幌でも耳の聞こえない人が音楽を楽しめるような取組の実例があるので、障がいを持つ人たちでも楽しめる文化芸術に関して発信するとともに、アートと防災・観光・日々の生活の共生の取組についても発信してほしい。	○ 施策 1-1 の取組を通じて、障がいのある方でも文化芸術に容易に触れることができる機会を創出していきます。 ○ 様々な分野との連携については施策 4-1 の取組を通じて検討してまいります。
施策 1-1 1-2 2-1 2-2	札幌三曲 協会 馬場氏 ・大畑氏	○ 邦楽演奏者の高齢化が著しく、若年層をどう取り込んでいくかということが大きな課題。学校の教科として触れる機会がなくはないが、そこから継続的に実演するところまでつながらない。例えば、学校以外でも気軽に邦楽を体験することができるイベント・場所などがあるとよい。 ○ 演奏者のスキルアップが聴く側にとっての魅力になるので、例えば東京からより優れた演奏家を招へいし、他の邦楽分野を巻き込んだセミナーなどを企画できるとよい。 ○ 横のつながりの中で意見交換を行う場がないので、他の方各分野も交えた横断的な意見交換の場があるとよい。遠方・高齢などの御理由で集まることが難しい場合もあるので、コミュニケーションツールの活用も考えられるとよい。 ○ 演奏に使える施設が不足しており、特に邦楽は他のジャンルとはことなる設備が求められることもあるので、そういったものを備えた施設となるとさらに限られる。 また、一般の方々が邦楽を気軽に聴くことのできる演奏の場と意味では地下歩行空間のスペースなど、無償で使えるような場があるとありがたい。	○ 多様な鑑賞機会の提供について施策 1-1 で推進するとともに、子どもに向けた体験・鑑賞機会の提供については、施策 2-1 において学校との連携も含めた検討を行ってまいります。 ○ 施策 2-2 において、アーティストのレベルアップやネットワーク構築などを支援する取組み・体制について検討してまいります。 ○ 施策 1-2 の重点取組事項として「今後のホールの在り方検討」を設定しました。

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策 1-2	成田委員	○ 施設の記載についてモエレ沼公園や図書館なども入れるべきと考える。	○ 施策 1-2 は文化芸術施設を市民の創造性喚起や学習の場としての使用など施設の活用の方を述べる場として整理しています。 ○ モエレ沼公園はご意見を踏まえて施策 1-2 の取組として整理いたします。 ○ また、図書館については、生涯学習施設の色合いが強いことから、本計画において、図書館全体を取り扱うことは適切ではないと考えますが、図書情報館については、hitaru や SCARTS との連携を行っていることから、札幌市民交流プラザとして引き続き施策 1-2 の取組として整理いたします。
施策 1-2	成田委員	○ 3 館体制の言葉がわからないので、説明が必要と思う。	○ 3 館体制については、大規模な多目的ホールである、札幌文化劇場 hitaru、札幌市民ホール、札幌市教育文化会館の 3 館があることを指していますが、この内容について本書では注釈を入れたいと思います。
施策 2-1	ト部委員	○ ステージ 2-1 の重点取組事項について、「学校と積極的に連携する」または「アーティストが学校に訪問して」という文言を入れる方が良いのではないかと。	○ 「学校と積極的に連携する」を反映しました。

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策 2-1	北海道文化 財保護協会 田山氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ あらゆるステージを貫く重点として、次世代を育成し、子どもたちに文化芸術の良さを理解し守ってもらうことが重要。</li> <li>○ 「Kitara ファースト・コンサート」や「こころの劇場」で小学生に鑑賞機会を提供しているのと同じような取組を文化財に関しても行うことができれば、大人になってからも興味を持ってもらえるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施策 2-1 において次世代の担い手になる子どもたちが文化芸術に触れる機会を創出するとともに、ステージ 3 を通じて地域が持つ文化資源の価値を認識できる取組を進めます。</li> <li>○ 施策 2-1 において、芸術だけでなく、子どもが文化財にも触れて体験できる機会を提供する取組を推進します。</li> </ul>
施策 2-1	北海道演劇 財団 斎藤氏 ・清水氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍を経て、例えば学校の授業で文化活動に取り組むことが難しくなっており、子ども達が文化に触れる機会が少なくなっていると感じる。</li> <li>子どもたちの学習の場・生活の場において、文化芸術を当たり前のものにしていくことが好ましい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施策 2-1 や 4-1 を通じて、子ども達が文化芸術に触れる機会の確保を積極的に進めます。</li> </ul>
施策 2-2	白鳥委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『アーツカウンシルの本市での必要性についても検討します』とあるが、『アーツカウンシルの本市での必要性及び仕組みについても検討します』のような形の方が良いのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 『全国で設置が進むアーツカウンシルの調査・研究を行い、本市での必要性及び仕組みについても検討します。』と修正しました。</li> </ul>
施策 2-2	佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アーツカウンシルの検討にあたっては、「調査・研究」も必要ではないか</li> </ul>	
施策 2-2	ト部委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アールブリュットのマネジメントができる人材についての育成やノウハウの共有も計画に記載すべきではないか。</li> <li>○ 本人がそれをやりたいという主張ができない場合も多いので、その場合サポートする意識が高くないと適切な取り扱いにならない可能性もあるため、そうした意識の変化も促していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ マネジメント人材を含めた文化芸術を支える人材については、様々な分野で課題になっているものであることから、アールブリュットも含めた広い考え方として整理させていただきたいと思います。</li> </ul>

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策 2-2	白鳥委員	○ 基金の活用は今後の文化行政にとって重要であることから、記載を充実させられないか。	○ 施策 2-2 の文章に「基金を活用した取組も進めます」との文言を追加。
施策 2-2	札幌舞踊会 千田氏	○ 異なるジャンルを組み合わせるなど、面白いことを企画できるディレクターのような人がいると、もっと札幌は活性化すると思う。	○ 施策 2-2 を通じて、アートマネジメントを行う人材をはじめとした様々な文化芸術を支える人材の充実やアーティスト同士のつながりの場を創出し、文化芸術を支える環境整備を目指します。
施策 2-2	札幌舞踊会 奥山氏	○ 方針を立てる部門・事務方と、施設利用者などを含む現場をつなぐ人がいない。現場の声を吸い上げて事務方に伝えるようなコミュニケーションの役割ができるコーディネーターのような人材がいるとよい。	
施策 2-2	みべ音楽院 三部氏	○ hitaru のような施設や行政も含め、専門的な人材の存在が必要。人材育成が重要。 ○ アーティストの若い人とベテランが結びつく場があれば、知見や価値観が継承され、人材育成につながる。	
施策 2-2	みべ音楽院 三部氏	○ 文化芸術の中でも、他のジャンルと交流することができれば、自分のレベルアップにもつながる。色々な世界を覗くことが大事。	
施策 2-2	AIS プラン ニング 漆氏	○ 文化芸術の発展には、文化施設だけでなく、担い手の育成やコーディネートなどの機能の拡充、専門人材・情報等のネットワーク形成などの目に見えにくいものも含めて、それら文化芸術を支え機能させるインフラ的なもの（環境整備）が必須であり、その重要性が理解されることが大切。	
施策 2-2	札幌芸術・ 文化フォー ラム 有田氏	○ 行政のジェネラリストな面がよい方向に機能する場合もあるが、アートの世界ではスペシャリストがいなくては成果につながらないということがよくある。スペシャリストの登用が課題。 ○ アートと公平分配は親和性が弱い組み合わせで、行政が直接、税金に基づいて芸術の振興やアーティストの育成をするのは限界があ	○ 施策 2-2 における中間支援団体のアートマネジメント機能の強化やアーツカウンシルの調査研究・検討などの取組を通じ、どのように文化行政における専門性を確保すべきかという点についても検討を進めます。

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策 2-2	札幌芸術・ 文化フォー ラム 寺林氏	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担い手の育成は、国の施策以上に地方において課題だと思ふ。例えば hitaru ではオペラやバレエのプログラムを地元と協力して作っているが、そうした機会は担い手育成にもつながると思ふので、オペラ・バレエに限らずそうした機会を増やしてほしい。</li> <li>○ また、担い手育成の場を作っていくためには地元団体などとの意見交換をしていくことも必要。そういうことを調整・実現することもアーツカウンシルが担うのだと思ふので、要否の検討から一歩踏み込んで、具体的な中身の検討にもつなげてほしい。</li> <li>○ 現在 SCARTS で行っている助成事業などにおいては、その内容の検討は内部的に行われているものだと思ふ。例えばそういった部分をアーツカウンシルが検討するなど、より開かれた形で評価や企画を行う形になれば、市民の声も反映されやすくなるし、行政的な負担も減るのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施策 4-2 においてアーティスト等に発表の場を提供することなどを通じ、担い手としてのステップアップも目指します。</li> <li>○ 本市におけるアーツカウンシルの要否や望ましいあり方については、施策 2-2 を通じ、他地域の事例なども参考としながら検討してまいります。</li> <li>○ 地域の文化芸術団体等との意見交換については、札幌市文化芸術基本条例において意見交換の仕組みを整備することが定められておりますので、次期計画期間においてもそうした場を設けてまいります。</li> </ul>
施策 2-2	AIS プラン ニング 小林氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化芸術をすごく大切に思ふ人もいれば、そう思わない人もいる現状はある。市民に広く文化芸術を大切に思ってもらうためには、文化芸術に触れてもらう機会を増やすことや、情報発信を行うことが大切。特に税金を投じて実施する文化芸術の事業については説明責任を果たす意味でも、実施事業者や行政が協力して活動の広報や報告を積極的に行い市民の理解を得る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化芸術施策の意義についての発信については、文化事業に係る市民理解を得るうえで重要と考えます。これまでの取組はもちろんのこと、施策 4-1 のような取組を通じて文化芸術の創造性をより広い領域へ波及させることで、文化芸術の価値を市民に理解していただけるよう努めてまいります。また、施策 2-2 のアーツカウンシルの検討の中でも文化芸術施策の意義に係る発信機能について検討してまいりたいと考えます。</li> </ul>

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策 2-2	札幌芸術・ 文化フォー ラム 森嶋氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 札幌のような人口規模のまちは、東京ほど財政的に潤沢ではないが、小さなまちに比べて人口規模に応じた責任があり、ある程度多様なジャンルを支える必要がある。そういう意味ではステージ2のような人材に関わる部分が大事だが、現状では人にかかる予算が弱いように思う。</li> <li>○ アートマネジメント機能の強化という観点での人材育成は重要だが、育成された後の行き場として、市民とアーティストやメディアとアートの間を取り持つ仕事を増やしていく必要がある。</li> <li>○ 芸術祭やシティ・ジャズなどの市主催事業が何を発信しようとしているのか、何のために実施するのかを市民に周知し、それが誇りにもなっていくような、PR的な発想も必要ではないか。</li> <li>○ 文化芸術というものは実に多様で、それらある程度カバーするためにはあえて行政が一步引くことも必要。イベントものの主催事業はわかりやすく成果を見せることができるが、市民団体などにもパスを出すことが全体の底上げになると思う。</li> <li>○ 札幌では芸大などの学び場が少なく、野心的で才能ある若者は外に出て行ってしまふ。一方で、関東・関西などでキャリアを積んだ人が、アトリエを持ちたいとか、環境を変えたいというときに地方にやってくる流れも確実にある。ステージ2のような施策によってそういう脂の乗ったアーティストがやってくる環境を作ることができれば、まちのレベルが上がるし、まちの誇りにもつながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施策2-2や4-2における取組を通じ、アーティストやマネジメント人材が活躍しステップアップできる環境や、市外のアーティストにとっても魅力ある活動環境を目指します。</li> <li>○ 文化芸術施策の意義について市民に周知する取組については、従来のおり事業に関する情報発信を行うことはもちろんのこと、施策4-1のような取組を通じて文化芸術の創造性をより広い領域へ波及させることで、文化芸術の価値を市民に理解していただけるよう努めてまいります。また、施策2-2のアーツカウンシルの検討の中でも文化芸術施策の意義に係る発信機能について検討してまいりたいと考えます。</li> <li>○ 市民団体等との連携については、施策2-2における「中間支援団体を通じた伴走支援の仕組みの検討」など、民間事業者等の力を生かして幅広い領域をカバーする取組を検討してまいります。</li> </ul>

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
施策 3-1	谷本委員	○ 施策3-1の重点取組事項である自然史博物館の検討は、自然史だけでなく文化遺産に関する総合博物館にすべきではないか	○ 北海道大学や北海道博物館との住み分けというものを考慮し、自然史博物館として設置することを既に計画している状況。 ○ 但し、自然史博物館の中で歴史に触れないということを決めているわけではないため、頂いた意見も踏まえて今後検討を進めたいと考えます。
施策 3-1	北海道文化財保護協会 小田嶋氏 ・田山氏	○ 芸術の森でいつでも芸術に触れられるように、常にそこにいけば歴史などに触れられる拠点、保存に関する拠点として博物館が必要。 ○ 札幌の重要な発掘物等を見せていくことは観光にも資する。外に訴求するような施設が必要。 ○ 札幌は文化財等が散在しているので、最初に訪れるべき拠点があるとよい。そういったものがあれば教員も学習に取り入れやすく、札幌の歴史を児童に学ばせるハードルが下がる。	
施策 3-1	北海道文化財保護協会 角氏	○ 市内には様々な資料館や郷土館があるが、収集物のデータベース化があまり行われていない。子どもたちの学習材料としても有用なので、充実すると良い。	○ 施策3-1における「文化財等のデータベース化」の取組を引き続き推進します。
施策 3-1	北海道文化財保護協会 栗原氏	○ アドベンチャートラベルの中では冒険的なものだけでなく、和の文化や歴史に関する体験なども求められている。文化財に関しても体験的な取組の工夫を行ってはどうか。	○ 施策3-1の文章を「文化財や伝統的な文化等の多様な魅力を“観光を含めた”まちづくりに積極的に活用し、地域の活性化やコミュニティとのきずなを深める環境を整備していくことで、次の世代への橋渡しを行っていきます」に修正し、文化財等の観光への活用についても取組を進めていきます。
施策 3-1	札幌芸術・文化フォーラム 米澤氏	○ 北海道・札幌の歴史は明治以降と思われがちだが、実は、旧石器時代からの歴史があり、縄文からアイヌへとつながっている。そうした農耕開始以前から現在に至る地域文化の連続性は世界的にみても稀有である。この連続性のベースには、「すべてがつながっていて、一見違うと思えることも実は一体なんだ」という回帰・再生・循環の縄文の精神文化がある。 北海道・札幌の「自然と社会と個性」という一見異質なつながり	

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
		を、芸術のもつ創造性により、21世紀都市札幌ならではの大きな魅力として表現し発信していけるととてもよい。 そうした観点で観光を考えると、もし札幌にDMOができる時には、世界に向けて、自然・歴史・文化芸術を組み合わせた創造都市札幌をハブとする滞在型さっぽろツーリズムの提供が可能になるよう、札幌版DMOを中心とした地域のマーケティング/マネジメントができるとよい。	
施策 3-2	根子委員	○ 施策3-3で環境配慮などの取組を行うべきではないか。	○ 施策3-2に「またSDGs未来都市である札幌市が進める都市全体のサステナビリティの向上を図るため、札幌国際芸術祭やPMF、サッポロ・シティ・ジャズなどの文化芸術事業においても環境配慮に取組、都市のブランド力強化につなげていきます。」を追加しました。
施策 3-2	北海道民謡 連盟 荒川氏	○ 市内文化団体を紹介する市公式HPは想像するより多くの人に見られており、自身もこのページを見たインバウンドや旅行会社からの問い合わせを多数受けている。外国語圏に届けることも意識した情報発信を頑張してほしい。	○ 海外に向けた発信については、施策3-2の中で検討を進めます。
施策 3-2	札幌音楽家 協議会 八木氏	○ 観光で芸術に触れてもらうことや、経済との連携など、お金を落としてもらう工夫が必要。	○ 施策3-2の重点取組事項において、観光などのより効果的な連携について検討を進めます。
施策 3-2	札幌商工会 議所 山形氏	○ 近年、アドベンチャートラベルが注目されており、日本人が気づいていないものも、インバウンドにとっては価値を持つ場合がある。芸術や文化財なども含む様々なものの価値が上がっていくと思われるので、事業者の視点も交えた取組の掘り起こしができるとよ	

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
		<p>い。</p> <p>○ 様々な事業者等がつながって、芸術と観光という切り口で何かできるとよい。</p>	
施策 3-2	札幌観光協会 細川氏	<p>○ 札幌は他地域と比べても東アジア圏からの観光客が多く、欧米からの誘客が観光分野での課題。欧米からの観光客は歴史・文化に関する体験を求める傾向がある。小規模なイベントでも文化に触れられるものはあるので、様々なものをつなぎつつ情報発信を行うことで、インバウンドの興味を引くことができると思われる。</p> <p>○ 欧米からの観光客が体験的なものを求めるのは、夜間観光においても同様なので、例えばすすきので芸妓さんによるお座敷体験が行われているように、夜間の文化的観光も重要になる。</p> <p>○ 例えば雪まつりでは本郷新記念札幌彫刻美術館と連携した雪像制作をしているが、イベントという一時的な場はテスト的に連携するのに適している。官民の連携をいきなり大規模に行うのはハードルが高いが、イベントなどを通じた小規模な連携から始めることは比較的容易と思われる。</p> <p>○ 京都などで行われている文化財の限定公開のように、プレミアム感のある体験は訴求力があるかもしれない。</p>	<p>○ 観光分野と文化芸術分野の連携については、施策3-2や4-1を通じて具体的な取組を検討するとともに、幅広い主体との連携を深めてまいります。</p>
施策 4	白鳥委員	<p>○ ステージ4のリード文に「まちづくりの活用」を表現してほしい。</p>	<p>○ ステージ4のリード文に反映しました。</p>
施策 4-1	北村委員長	<p>○ 施策4-1の重点取組事項を以下のとおりとしてはどうか 重点取組事項：メディアアーツ（マンガ、アニメ、コスプレ、映像、デジタルアートなどを含む）や異ジャンル融合、実験的試みなど新たな文化芸術の可能性を探求します。また世界中のアーティストから刺激を受け、札幌のアートがレベルアップできる環境を目指</p>	<p>○ 前半の記述については、施策4-1の重点取組事項に基本的に反映しました（コスプレは、メディアアーツと言えるか判断が分かれるため、削除させていただきました）。</p> <p>○ 後半の記述については、施策4-2の内容であ</p>

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
		します。	るため、施策 4-2 の文章内に反映しました。
施策 4-2	根子委員	○ 施策 4 - 2 の文中に事業効果の高い「天神山アートスタジオのアーティスト・イン・レジデンス」について記載をした方が良い。	○ 各施策の文章は大きな考え方を示す内容として位置付けており、基本的には個別事業の記載はなじまないものと認識していることから、当該文中への記載は控えさせていただきたいと考えます。特別な記載はしませんが、アーティスト・イン・レジデンスについては、他の事業同様、4 期計画を支える事業として取り組んでまいります。
施策 4-2	AIS プラン ニング 漆氏	○ 民間企業のスタートアップ支援や基礎研究と同様に、文化芸術の世界においても、将来において新しい価値が生み出される可能性に対して投資をすることが重要	○ 施策 4-2 において「新たなチャレンジを後押しできる環境整備」を追加しました。
評価 検証	長沼副委員 長	○ 色々行われている文化芸術活動、市が企画している文化イベントの再評価をしっかりとやるべきだと思う。	○ 評価検証について、外部有識者による検証を行う旨を明記しました。
成果 指標	成田委員	○ 成果指標のところに 5 年度のあるべき札幌の姿が描かれていることが望ましく、それが、「戦略ビジョン」の P 7 9 であれば、その中に記載のある「私たちが取り組むこと」の記載が良いのではないか。	○ 10 年後のあるべき姿は、まちづくり戦略ビジョンの目指す姿として、P5 に記載済みとなっております。また、「私たちが取り組むこと」で記載されている行政側の取組については、委員会で議論した内容で十分網羅できていることから、敢えて掲載する必要はないものと考えます。
成果 指標	成田委員	○ そもそも文化芸術の効果は数値化しきれないものだと思うので、% だけではない評価軸があった方が良いのではないか。	○ 評価については、5- (1) にあるとおり、外部有識者による評価も並行して行うこととさせていただきます。

分類	発言者	これまでのご意見概要	対応案等
成果 指標	北海道演劇 財団 斎藤氏	○ 他のアンケート等ではPMF やシティ・ジャズと一緒に演劇シーンも対象となっているので、「市内主要イベントの観客数」の対象イベントに加えてほしい。	○ 第4期計画より対象に加えます。
その他	札幌芸術・ 文化フォー ラム 蔵氏	○ 日本は海外と比べて、行政の予算に占める文化予算の割合が少ない。だから同等にしろということではなく、まずは文化予算をわかりやすく透明化することが必要だと思う。それによって、行政が文化芸術に対して負うべき責任の割合として十分であるか、200万都市ならどのくらいの文化基盤が必要かといったことを考えることができるし、文化予算中での用途についても市民が考えることができる。 ○ 情報公開の理念を持つことが大切。	○ 現状の取組として、文化部の事業等の概要を整理した刊行物「さっぽろの文化行政」において文化関係予算の概要を公表しておりますが、よりわかりやすく有用な情報を提供できるよう、改善を検討します。